

1. 研究課題名：

「ES 細胞の多能性維持に果たす基本転写開始因子と伸長因子の機能解明」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：東京工業大学生命理工学研究科 准教授 山口 雄輝

2-2. イスラエル側研究代表者：ワイズマン科学研究所 生化学講座 准教授

Rivka Dikstein

3. 総合評価：(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

当初の目標に必ずしも沿った形ではないものの、共同研究を通じて新たな展開が生まれつつあり、2 国間の交流事業の目的に合致した成果が挙げられている。すなわち、本課題の周辺領域に位置づけられる、NF- κ B の活性化状態が短期である分子機構が明らかになり、その成果が一流誌に掲載されたことは高く評価される。

本来の目的であるES細胞における転写因子の役割について、今回の成果をもとに、新しい発想による研究のさらなる展開が望まれる。

(2)交流成果の評価について

従来の共同研究が今回のプロジェクトによって深化し、新たな戦略と方向性にもとづいた研究が展開されており、論文化もなされ、高く評価できる。これらの成果には、日本グループがイスラエルグループ研究機関を訪問し、グループ間のワークショップを日本で行うとともに、海外の学会でも交流する機会をもつ等の努力を重ねたことも寄与していると考えられる。また、将来、今回の共同研究を、長期的に継続・発展させることが期待できる人的ネットワークが構築できた点も意義深い。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

計画通りの成果が達成されるには至らなかったが、関連性があり今後の進展を促進する有益な結果が得られており、研究目標に対して、日本とイスラエルの研究グループの特徴を活かした共同研究体制が構築され、有機的に連携・機能した点は特筆に値する。共同の論文も発信し、若手を含めた実質的な協力体制が2国の研究グループ間に醸成されたことを反映しており、今後も継続的に発展することが期待できる。